

島根県にアリは何種いるのか？ ～種多様性の解明を目指して～

林 成多（ホシザキ野生生物研究所）

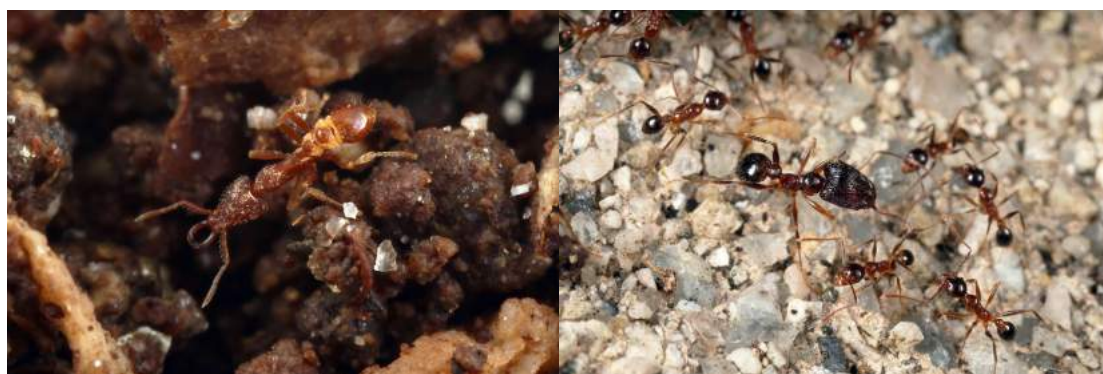
アリ類はハチ目アリ科に分類される昆虫であり、日本からは 284 種が知られている（寺山，2016）。日本に生息するアリは詳しく研究されていて、専門書や一般向けの図鑑も発行されている。人家の庭や公園など身近な環境に生息するクロヤマアリやアミメアリなどを含む一方で、照葉樹林の土壌など自然の豊かな環境のみに生息する種も多い。

島根県は隠岐諸島も含め豊かな自然環境を有する地域であるが、アリを専門に調べる在住の研究者がいなかったため、全体像を知るには個々の文献記録を調べる必要があった。演者は、宍道湖グリーンパークの展示を行うため、2014 年より生態写真の撮影を主な目的として調査を開始した。2017 年には国内で外来種のヒアリが確認され、アリの同定確認に協力することとなったため、改めて島根県のアリ相について文献・標本記録の確認および野外調査を実施した。その結果、82 種が確認され、この中には島根県で初めて記録されたキタウロコアリ、オオズアリ、ミナミキイロケアリが含まれている。希少種では環境省版レッドデータブックで絶滅危惧 II 類とされるトゲアリが県内各地で確認されているが、隠岐諸島の島後では近年の記録がないため、再確認をする必要がある。近隣の都道府県の記録（佐藤ほか，2010）と比較して、82 種は多い方ではあるが、未記録と思われる種も少なくないため、更なる調査が必要である。

[参考文献]

佐藤隆士・鶴崎展巨・濱口京子・木野村恭一（2010）鳥取県のアリ類。鳥取県立博物館研究報告，(47): 27-44.

寺山 守（2016）日本産有剣膜翅類目録(2016 年版). <https://terayama.jimdo.com>



キタウロコアリ（左）とオオズアリ（右）